

長野県生涯学習審議会（第2回）次第

日時 平成20年10月20日（月）

午後1時30分から4時まで

場所 議会棟3階 第1特別会議室

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 委員紹介

4 会議事項

（1）長野県の生涯学習振興のあり方について

ア 前回の意見整理と審議の基本的方向

イ 委員からの実践事例発表

ウ 各世代における学びとその生かし方

（2）答申策定スケジュールについて

（3）その他

5 閉 会

資 料

資料 1	第 1 回生涯学習審議会の意見整理	P . 1
資料 2	審議の基本的方向	P . 2
資料 3	委員からの参考資料 1 (1) 人や地域とかかわって学ぶ機会・場について	P . 3
資料 4	委員からの参考資料 2 (2) 学びの成果を人や地域に生かす活動について	P . 4
資料 5	答申策定のスケジュール	P . 5

第1回生涯学習審議会の意見整理

1 課題

学ぶ機会・内容	飛び込むまでに時間がかかる。(臼田委員) 仕事が忙しく啓発の余裕がない。(植松委員) 子どもがゲームやネット漬けになっている。(坂本委員) 若者(20~30代)の学習の機会が少ない。(白戸委員) 人間教育より知識教育になっている。(水野委員) いつでも、どこでも、誰でも、何でもいいわけでない。(小島委員)
人とのかかわり	社会環境の変化で仕事以外に集まりにくい。(小泉委員) 教室の中だけで世の中にかかわる力がつかない。(土井委員) 人間同士の絆が希薄化。ともに行動するのが不得手。(小泉委員)
地域とのかかわり	学び方によっては、地域の中に差をつけてしまう。(白戸委員) 公民館は地域の生涯学習・地域づくりの拠点。(神津委員) 地域の課題を解決していく機能が失われてきた。(白戸委員)

2 課題への対応

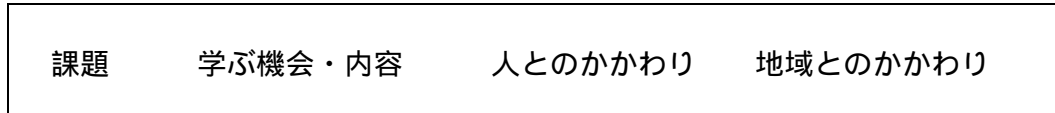
子どもの学び	家庭	保護者がもう少し責任をもって子どもを育てる。(小島委員)
	P T A・育成会	子どもに魅力あるもの、その環境を与える。(坂本委員)
	地域社会	豊かな交わり(外国の方、障害者、お年寄、保護者)(坂本委員) 地域の違った年代の人と学び、遊ぶ。(塚田委員)
成人の学び	20~30代	労働形態にあった若者の学習の機会をつくる。(白戸委員)
	中 年	忙しく働く年代に目的をもてるしかけが必要。(植松委員) 子どもたちからパワーをもらう。(坂本委員)
	団塊・退職者	農作業などで青少年とかかわる。(土井委員)
	高齢者	体を動かして楽しむ環境づくり。(塚田委員)
教育機関の役割	専修学校各種学校	学習成果が地域に還元できる中継ぎ役。(臼田委員)
	大学	地域の若者を地域で育て、地域にかえす。(白戸委員) 生涯学習の活動・団体・施設との連携(白戸委員)
	公民館	住民主体の生涯学習・地域コミュニティづくりの拠点(神津委員)
	その他	活動・施設を新しくつくるより、あるものを活性化する。 学習内容の中に、地域への還元方法を含める。(白戸委員)

3 生涯学習の願い

- ・ 人と人が楽しく交わっていく、人の笑顔が欲しくて努力している。(水野委員)
- ・ 自分で自分を守る力を引き出し、力づける。(白戸委員)
- ・ 一生体を動かして、元気で楽しい人生を送る。(塚田委員)
- ・ 少く(おさなく)して学べば、壮にして為すところあり。壮にして学べば、老いて衰えず。老いて学べば、死して朽ちず。 佐藤一斎(土井委員)

審議の基本的方向

1 第1回生涯学習審議会の意見整理から



- (1) 個人の趣味・生きがいづくり等に加えて、「人や地域とのかかわり」がある学び
- ・「人や地域とのかかわり」も学ぶ学習の機会・きっかけの提供
 - ・異なる世代や多様な人々に関わる学び

- (2) 学びの成果を「人や地域に生かす(還元する)」活動
- ・「人や地域に生かす」活動の中からも新たな学び
 - ・講座や活動での指導者、ボランティア活動や自治会での地域活動、子どもの育成活動や若い世代への継承活動、学校や職場の地域活動、等

豊かな人間関係の構築や地域の教育力向上、地域コミュニティ再生の方向へ

審議の基本的方向

人や地域とかがわって学び、学びの成果を人や地域に生かす生涯学習の推進

2 第2回生涯学習審議会の審議の観点

- 各世代における、(1)と(2)の現況(方法・課題)について
- (1) 人や地域とかがわって学ぶ機会・場
 - (2) 学びの成果を人や地域に生かす活動

(1) 人や地域とかかわって学ぶ機会・場について

	人や地域とかかわって学ぶ機会・場	現 況	
		方 法	課 題
子ども (幼少年)	子どもたちの外遊び(仲間・自然) 水野委員 小・中学生の宿泊体験(自然体験・生活体験)、体験活動 松村委員 放課後子ども教室 小島委員 「信大YOU遊世間」、YOU遊フェスティバル 土井委員 お話し会、読み聞かせ会、地元文学講座(民話・詩・短歌) 植松・小島委員 サマーチャレンジボランティア(中学生) 小島委員 小・中学生の職場体験、企業人による学校出前講座 塚田委員 親子ふれあい学級、乳幼児学級、世代間交流学級 神津委員 公民館体験学習、公民館訪問、通信俳句講座 神津委員 専修学校各種学校等による対象年齢にあった講座 白田委員 世代の枠を超えたかかわりの機会・場 坂本委員	親が率先する。命の尊さや親子関係などを教える。 学校・園との連携 学校と地域との連携・協力 親子で参加、園や学校との連携・協力 学校とボランティアの協力体制、地域の協力 学校との連携、職場体験の場の提供、進路指導への協力 園や学校との連携・協力、家族間交流、農業体験等機会の提供 利用しやすくするためのイベントなど企画 子育て支援センター、放課後子ども教室、青少年ホーム、障害者施設、シルバー人材センター、高齢者福祉施設	保護者の理解、学校での宿泊体験行事の減少、部活動により参加率低迷、多様なプログラムの提供 保護者の理解、保護者の参加意識 家庭の理解・協力、子どもの意欲 受講者の温度差、事前・事後学習(継続した学習)、受け入れ体制づくり 学校・保護者の理解、親の公民館の認知 有料のため参加者が限定、住民全体への周知が困難、学校との連携 地域・学校・家庭の理解・協力・連携
青年	企業人による学校出前講座、大学生のインターンシップ 塚田委員 サマーチャレンジボランティア(高校生) 小島委員 「信大YOU遊世間」などの企画・運営(大学生) 土井委員 ボランティア養成研修、大学サークル活動、社会教育主事実習 松村委員 グループ活動、サークル活動、ボランティア活動 水野委員 映画・音楽鑑賞 植松委員 青年を対象とした集い・イベント、サークル活動 小泉委員 成人式、世代間交流学級 神津委員 公民館の若者カルチャー講座 白戸委員 専修学校各種学校等対象年齢にあった講座 白田委員 世代の枠を超えたかかわりの機会・場 坂本委員	学校との連携・協力、進路指導への協力、地元就職を援助 社会福祉協議会と学校の連携 初めはスタッフとして、次にリーダーとなって 高校・大学との連携 音楽・スポーツなど多様なグループやサークル作りの支援、参加しやすい ボランティアづくり、職場・サークルへの呼びかけ、趣味等の把握、集まり やすい企画・立案、地域への関わりを促す活動 青少年健全育成会との連携、地域の祭りに参加 駅前等でパフォーマンスする若者のカルチャーを学ぶ。 専門8分野 工業系・農業系・医療系・服飾家政系・衛生系・文化教養系・商業実務系・教育社会福祉系 青少年ホーム、障害者施設、高齢者福祉施設	受講者の温度差、事前・事後学習の有無、受け入れ体制づくり、職種の偏り、就職目的で利用 学業とアルバイトとの両立 大学への広報、社教主事講習課程を有する大学の減少 公の場で若者たちを認めること。仲間で夢を一つにする必要性がある。 あらゆるジャンルからの作品選定(映画・音楽) 集団活動に消極的、家庭の理解・協力 地域行事への参加意識の希薄 関心をもってもらえるか。若者にリーダーはいるか。 有料のため参加者が限定。独自の広報があり住民全体への周知が困難。
壮年・中年	おやじの会、男性料理・介護教室、家庭菜園 神津委員 自治会活動、地域の役員、文化的活動に参加 水野委員 市町村での生涯学習講座 小島委員 第二の人生準備講座 白戸委員 専修学校各種学校等対象年齢にあった講座 白田委員 同種同好会(サークル活動) 小泉委員 ボランティア養成研修、自然体験活動指導者養成研修 松村委員 ボランティア活動 小泉委員 宅配ボランティア、図書館ボランティア講座 植松委員 世代の枠を超えたかかわりの機会・場 坂本委員	退職後の男性対象、新しい講座の開設 趣味的なことでもいい。まず参加しやすい社会づくり。 50代を対象に、定年後に地域での役割を見出す講座企画 中高年対象のコース内容、誰もが参加しやすく 社会福祉協議会・社会教育団体(PTA・子ども会等)・ 企業等との連携 各団体との連携 子育て支援センター、障害者施設、シルバー人材センター、高齢者福祉施設	男性参加者の確保、日常生活の見直し・最適に挑戦する意識 社会人としての責任と楽しさ 自分のために受講するが、人のために生かす意欲が少ない。 忙しくても参加したくなるような魅力ある企画づくり 有料のため参加者が限定。独自の広報があり住民全体への周知が困難。 他の機関・施設との連携 指導者養成研修への参加者が少ない。仕事の多忙と社会教育への関わりが 少ない。20代~30代の自然体験不足。仕事以外に関わる時間がない。仕 事中心で地域行事等への関心が薄い。ボランティアスタッフの確保。
高齢者 (高年)	クラブ、シニア大学、高齢者大学院 水野・小島・神津委員 市町村での生涯学習講座 小島委員 コミュニティビジネスによる地域づくり講座 白戸委員 専修学校各種学校等対象年齢にあった講座 白田委員 高齢者講座(古文書等)、自分史講座 植松委員 「信大茂菅農業義塾」、「茂菅ふるさと農場」研修 土井委員 自然体験活動指導者養成研修 松村委員 異年齢・異業種・多国籍の方々との交流 坂本委員	場の提供、現代的課題の学習、経験や知識の伝承 経験を生かして地域に関わる機会をつくる講座企画 高齢者対象のコース内容、誰もが参加しやすく 会・サークルへの呼びかけ 長野市農業公社、JAを通じて募集 社会福祉協議会・社会教育団体との連携、生きがいと活動のコラボレーション 障害者施設、シルバー人材センター、高齢者福祉施設	活動の場への交通確保、家族の理解、意欲のある人だけが参加 経済活動を公民館などが受け入れられるか。 参加者が限定。住民全体への周知が困難。他の機関・施設との連携。 興味ある講座づくり 適切な場所に遊休農地を斡旋 指導者養成研修への参加者が少ない。

	学びの成果を人や地域に生かす活動	現 況	
		方 法	課 題
子ども (幼少年)	まちづくりの夢を提案、もう一つの学校づくり 水野委員 通信俳句講座などで高齢者などと交流 神津委員 地域へのボランティア活動 白田委員 サマーチャレンジボランティア(中学生) 小島委員 子どもによる幼児対象のスポーツ教室 白戸委員 伝統行事の下級生への指導 小島委員 地域文化の継承 植松委員 Y O U遊フェスティバルで学んだソーラン節披露 土井委員 体験学習を家庭や学校生活に生かす。 土井委員 「自然の家」等での非日常の活動を日常の学校や家庭に生かす。 (生活体験・コミュニケーション力・自己肯定感・仲間との協力) 松村委員	年齢等、力量に応じた活動、ピオトープ・巣箱作り 親子で参加、発表によって交流の楽しみ 地域に還元できる場の提供 地域の人やコーディネーターの協力 スポーツ少年団などを単位に地域活動への参加 学校・地域との連携 体験学習で学んだことを日常生活に生かす。 体験学習サイクルの活用	学校との連携 学校・保護者の理解、講座回数・時間の工夫(共働き世帯) 学んだ技術を地域に還元できる場の提供、市町村や他の機関・施設との連携 保護者や指導者の意識や理解 指導者の確保、発表の場 学校・家庭との連携 子どもの健全育成 児童館不足の解消 ゲーム・ネット漬け解決 高齢者からの智恵の伝達 働く大人たちへの尊敬の念
青年	ボランティア活動 小泉委員 サマーチャレンジボランティア(高校生) 小島委員 幼児への読み聞かせ(高校生) 小島委員 大学が地域と連携した活動:「信大Y O U遊世間」 土井委員 「自然の家」事業等にボランティアとして参画 松村委員 ボランティアの自主企画事業 松村委員 各種イベントの手伝い、地域文化祭の企画運営 小島・神津委員 地域へのボランティア活動、専門的指導 白田委員 I T指導やまちづくりへの参画 坂本委員 若者の文化によるまちづくり 白戸委員 組織・仲間づくりから運営 植松委員	社会福祉協議会と学校の連携 ボランティアサークルなどの支援 先輩から後輩へと継続 体験学習サイクルの活用、大学等への広報活動 地域会合やスポーツ・レクリエーションに参加 専門8分野で学んだことを地域に還元する。 若者のパフォーマンスできる場を街中に創り運営する。 新たな視点での企画づくり	社会参加への意識・関心の喚起 家庭の理解・協力 志の高い学生集団の育成 ボランティア活動の単位認定化 地域行事への参加が少ない。成人としての自覚 市町村、他の関連機関・施設との連携 引きこもりやニート対策、将来の子育てや介護の不安 担い手の確保と周囲の理解 参加者募集・場所づくり
壮年・中年	学校出前講座、職場体験、インターンシップ等で指導 塚田委員 社協等のボランティア活動に参加 小島委員 地域へのボランティア活動、青少年に専門的指導 白田委員 地域や市民文化祭等の企画運営 神津委員 子どもや青年へのキャリア教育指導 坂本委員 子育て支援、青少年への家庭教育(兄弟・親) 坂本・白戸委員 外国籍の方の参画による国際理解教育 坂本委員 「自然の家」事業等にボランティアとして参画 松村委員 子どもの体験活動の指導者 松村委員 地域と図書館のネットワークづくり 植松委員	職場を理解してもらう場の提供 身近な人からの働きかけ 専門8分野で学んだことを地域に還元する。 地域住民の参加を得て発表の機会づくり、生涯学習リーダーバンク等の育成 社会的、文化的活動に可能な限り協力する働きかけ 子育てを終えた世代を対象に家庭教育支援活動 体験学習サイクルの利用、施設の周知広報・事業広報 地域での活動の場の確保	子どもへの指導は素人 独りよがりになる人もいる。人のために生かす気持ちが弱い。 市町村、他の関連機関・施設との連携 学習成果をボランティア活動等に生かす。 社会参加が必要なのに、労働により思うように活動しにくい。個の生活に慣れ、集団活動の価値を見出せない。 様々な体験活動の指導者のネットワーク構築、様々な学びの場とのネットワークの構築 ボランティアスタッフの確保
高齢者(高年)	地域美化活動(奉仕活動・事業活動) 水野委員 子どもの地域活動・文化の伝承や指導 神津・小島委員 放課後子ども教室や学校での指導 小島委員 遊休農地の活用 土井委員 地域へのボランティア活動、青少年に専門的指導 白田委員 ラジオ体操お助け隊 白戸委員 知恵・文化継承・平和教育・人権教育・命の教育 植松・坂本委員 青少年団体の指導者、自然体験活動指導者 松村委員	社会や人のために動き出す機会づくり 地域の団体とのつながり、生涯学習リーダーバンク等の育成 地域の人たちの協力 農家先生、J A、営農指導部職員による営農指導、遊休農地の開拓指導 専門8分野で学んだことを地域に還元する。 体操が好きな高齢者が子どものラジオ体操を見守る。 さらなる学習の機会・場の提供 体験学習サイクルの利用、施設の周知広報・事業広報	壮年期から高齢者になるまでのあり方を考える機会 コーディネーターを増やす。 ボランティアについての学校との連携が難しい。 市町村、他の関連機関・施設との連携 保護者がただ楽をするだけにならない配慮。責任体制。 指導者の確保、発表の機会、資料収集 様々な体験活動の指導者のネットワーク構築、様々な学びの場とのネットワークの構築

生涯学習審議会における答申策定のスケジュール（案）

	H20 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H21 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
開催月・審議内容			諮問・説明・自由討議			意見整理と課題論議			答申の方向・構成				答申原案審議	パブリックコメント	答申案審議 最終	答申提出		
教育委員会	・協議会		定例諮問委員会 内選任													定例答申提出		

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会長選出、職務代理指名 ・ 諮問説明 ・ 生涯学習振興施策等説明 ・ 意見交換（自由討議） ・ 審議会計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見整理と課題論議 <p style="text-align: center;">現況の課題論議、 事例紹介及び具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答申の方向性と 答申案の全体構成 <p style="text-align: center;">答申に関わる課題 及び具体策検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答申原案審議 <p style="text-align: center;">原案に関わる課題 及び具体策検討 事例検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答申案審議 <p style="text-align: center;">最終修正</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答申提出